

鶴見緑地再生・魅力向上計画
参考資料

平成31年3月

大阪市

目 次

1	鶴見緑地の概要	1
	(1) 鶴見緑地の経過	
	(2) 鶴見緑地の概要	
	(3) 鶴見緑地の現況	
2	計画の位置づけ	14
	(1) 鶴見緑地の主な関連計画	
	(2) 鶴見緑地のポテンシャルと現状の問題点	
3	検討の視点	17
	(1) 鶴見緑地を取り巻く状況	
	(2) 鶴見緑地のめざすべき姿の検討にあたっての視点	
4	持続可能な発展を実現するための取組	34
	(1) 維持管理からマネジメントへの転換	
	(2) 民間の創意工夫を活かした魅力向上	
5	既存施設の利活用について	36
	(1) いのちの塔について	
	(2) 大池の水質調査について	
6	目標来園者数	39
7	参考：基本方針に基づく必要な機能と取組のイメージ	40
	(1) 海外における事例	
	(2) 国内における事例	
	(3) 再生可能エネルギー・クリーンエネルギーの活用や効率的なエネルギー 活用のイメージ	

1 鶴見緑地の概要

(1) 鶴見緑地の経過

1) 第1フェーズ：都市計画決定から花博開催

鶴見緑地は、服部緑地、久宝寺緑地、大泉緑地とともに4大緑地として1941（昭和16）年に都市計画決定がなされた。4大緑地は、当時、人口過密が著しく進む大阪府下において、これ以上の過密を防ぐため、市街地を疎開、緑化し、都市機能・生活環境の向上を図ることを目的に、大阪市をとりまく形に配置されたものである。

1943（昭和18）年には戦時の防空の観点から、防空緑地に指定されたことに伴い、急速に用地取得を行い、1945（昭和20）年の終戦時まで約102.46haの買収が完了した。しかしながら、戦後の農地解放によって一部用地（約2ha）を除き、鶴見緑地の大半の用地が農家に解放され、低湿地であったことから蓮根等が栽培されるようになった。

その後、大阪市の急激な膨張に伴い、鶴見緑地の重要性が再び高まり、1962（昭和37）年から再度、用地取得に着手した。

本格的な造成工事に1970（昭和45）年より着手し、1971（昭和46）年からは年々増加する廃棄物処分に対応するため、廃棄物埋立処分が始まり、ごみのほか地下鉄工事や道路・建築工事の掘削残土も利用した造成を行い、市内で最高峰となる鶴見新山を出現させるなど、鶴見緑地は都市の廃棄物をみどり豊かな公園として生まれ変わらせるという、高度成長期の日本社会が抱える都市問題解決の先進的モデルとなった。

1972（昭和47）年からは整備工事に着手し、「市民園芸村（貸農園）」「大芝生」など11.8haを供用開始し、さらに「乗馬苑」や「子どもの森」等の整備を進め、1986（昭和61）年には72.4haを供用開始した。

順次、公園整備を進め開設面積を増やしていくなか、1981（昭和56）年には、8年後の大阪市制100周年記念事業のメインイベントとして国内博覧会となる「花の博覧会」を開催することについての検討がはじまり、1983（昭和58）年に鶴見緑地で開催する「花の博覧会」を市制100周年記念事業のメインイベントとすることが承認された。

「花の博覧会」は、1985（昭和60）年には、国の閣議決定を経て、国際博覧会条約に基づく特別博覧会「国際花と緑の博覧会（以下「花博」という。）」としての開催がBIE（博覧会国際事務局）に承認され、国際博覧会として開催することが決定された。花博は、東洋で初めて開催される大国際園芸博覧会という位置づけでもあり、人類の普遍的な目標である「自然と人間との共生」をテーマに、1990（平成2）年4月1日～9月30日（183日）の期間で開催され、総来場者数2,300万人を超えるという特別博覧会史上最高の記録を打ち立てた。

2) 第2フェーズ：花博閉会後から現在

大阪市では、花博の開催準備と並行して、花博終了後の鶴見緑地を21世紀にふさわしい公園とするための検討を行うため、1988（昭和63）年7月に「鶴見緑地みらい計画懇話会」を設置し、1990（平成2）年4月に花博施設の存置及び利活用等についての提言（鶴見緑地みらい計画への提言）を受けた。この提言を踏まえ、1990（平成2）年12月に「鶴見緑地基本整備計画（基本計画書）」を、1991（平成3）年8月に「鶴見緑地基本整備計画（基本設計）」を市で策定し、これに基づき、現在まで鶴見緑地の再整備を進めてきた。

2006（平成18）年度からは、多様化する市民ニーズにより効果的・効率的に対応するとともに、民間ノウハウを生かしつつ、サービスの向上と効率的な運営を図る目的から、咲くやこの花館及びスポーツ施設の各施設の運営管理に指定管理者制度を導入した。

また、2014（平成26）年度から、未整備区域となっていた鶴見緑地駅前エリアに民間活力を導入し、民間事業者による温浴施設、フィットネス施設、フットサル施設等の整備と管理運営が行われ、新たな賑わいを創出している。

現在の鶴見緑地は、2015（平成27）年4月より、未開設区域等を除く公園全体に指定管理者制度を拡大し、公園の維持管理を行っている。

- 1941（昭和16）年4月：都市計画決定161.92ha（過密都市対策の一環）
- 1970（昭和45）年：本格的造成整備に着手
- 1971（昭和46）年：ごみや地下鉄工事等の掘削残土による埋立て工事を開始
- 1972（昭和47）年4月：供用開始（11.8ha）
- 1975～1986（昭和50～61）年：随時拡張（供用面積72.4ha）
- 1981（昭和56）年：1990（平成2）年の市制100周年記念事業のメインイベントとして「花の博覧会」開催を検討
- 1985（昭和60）年12月：BIE（博覧会国際事務局）による国際花と緑の博覧会開催承認
- 1988（昭和63）年7月：鶴見緑地みらい計画懇話会設置（1990（平成2）年4月20日に提言）
- 1990（平成2）年：「国際花と緑の博覧会」開催（市制100周年の記念事業として、東洋で初めての大国際園芸博覧会）
- 1990（平成2）年12月：鶴見緑地基本整備計画（基本計画）策定
- 1991（平成3）年8月：鶴見緑地基本整備計画（基本設計）策定（以降、本計画に基づき公園整備を実施）
- 2006（平成18）年～：咲くやこの花館及びスポーツ施設の管理運営に指定管理者制度を導入
- 2014（平成26）年～：駅前エリアにおいて民間活力を導入（温浴施設、フィットネス施設、フットサル施設など）
- 2015（平成27）年度～：未開設区域等を除く公園全体に指定管理者制度を拡大

（2）鶴見緑地の概要

1）鶴見緑地の概要

鶴見緑地は、大阪市東部エリアの大阪市鶴見区と守口市にまたがる大阪市営の広域公園であり、都心部にありながら、自然を身近に感じ触れ合うことができる公園で、1972（昭和47）年4月1日に開園した。面積は約122.5haと大阪市営公園では一番の広さを有しており、園内には咲くやこの花館などの花博当時の施設や、大芝生や各種スポーツ施設などが整備され、災害時の広域避難場所にも指定されている。



図1 付近見取り図

2) 用途地域の状況

鶴見緑地の大部分は第1種住居地域（建ぺい率80%、容積率200%）となっている。

また、鶴見緑地周辺については、緑地の東側及び西側で隣接する区域は第1種住居地域、緑地の北側で隣接する区域（守口市域）は準工業地域、花博通や鶴見通の沿道は住居地域や商業地域、準住居地域となっている。



出典：国土地理院地形図をベースに作成（大阪府地図情報システム、マップナビ大阪）

図2 用途地域図

都市計画区域

3) 鶴見緑地周辺の交通ネットワークの状況

鶴見緑地東側には、主要幹線道路である大阪中央環状線と近畿自動車道が走っており、周辺には大東鶴見ICや門真ICが、また第2京阪道路と接続する門真JCが設置されている。

鶴見緑地を横断する形で、花博通（都市計画道路都島茨田線 W=50m）が、西側には国道479号（都市計画道路新庄大和川線 W=25m）、北側には国道163号（都市計画道路古市清水線 W=25m）、南側には鶴見通（都市計画道路東野田茨田線 W=25m）がある。

鶴見緑地の西側には、OsakaMetro今里筋線の新森古市駅、谷町線の関目高殿駅、京阪本線の関目駅がある。また、園内にはOsakaMetro長堀鶴見緑地線の鶴見緑地駅がある。

バスによるアクセス経路としては、谷町線都島駅、野江内代駅方面から大阪シティバス45系統、大阪駅前、京橋方面から大阪シティバス36系統、京阪守口市駅方面から京阪バス守口南部線19などがある。

今後、花博通沿いに淀川左岸線（都市計画道路大阪門真線）の整備や、大阪モノレールの延伸やそれに伴う新駅の設置も計画されている。

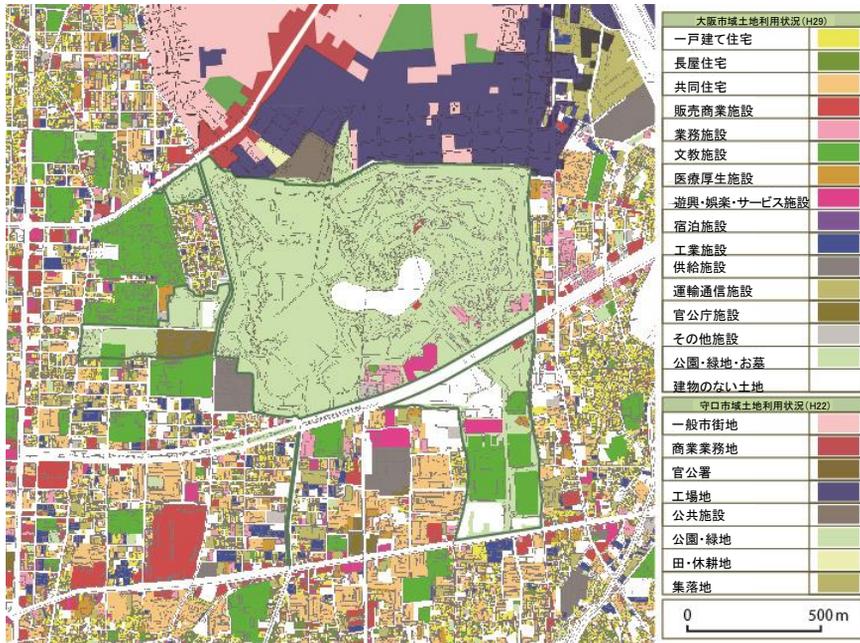


出典：マップナビ大阪

図3 交通ネットワーク図

4) 土地利用の状況

周辺の土地利用としては、鶴見緑地の東側の区域は戸建て住宅が多く、南側や西側の区域は共同住宅が多いものの、これらの住宅地の中に、販売商業施設や業務施設、工業施設などが混在する地域となっている。また、周辺には、小中学校や高校などの文教施設も点在している。



出典：マップナビ大阪、大阪府地図情報システム

図4 土地利用図

5) 計画地周辺の主な公園及び周辺施設

鶴見緑地周辺の主な公園・緑地として、北西側には、淀川沿いの国営の淀川河川公園、大阪市営の城北公園（総合公園）などがあり、南西側には、大阪城公園（歴史公園）や大川沿いの毛馬桜之宮公園（総合公園）がある。また、東側には、大阪府営の深北緑地（総合公園）がある。

その他の周辺施設として、造幣局、歴史博物館などの歴史・文化施設や各市役所・区役所、大阪府立門真スポーツセンターなどがある。

また、大規模な商業施設として、イオンモール鶴見緑地や三井アウトレットパーク大阪鶴見などがある。また、三井アウトレットパークには、大阪鶴見花き地方卸売市場が併設されている。



出典：マップナビ大阪

図5 計画地周辺の主な公園及び周辺施設図